

介護業界の未来を明るくするため 利用者、従業員の満足度を追求！

代表取締役 **福田 将之**



利用者満足度を第一に考え、訪問介護事業を展開する『カストル』。福田社長は超高齢社会の中で事業を通して介護業界を変えようと日々奮闘している。そんな社長のもとを、フリーアナウンサーの辻よしなり氏が訪問し、様々なお話を伺った。

—まずは、福田社長の歩みから。

学業修了後は東京にある建設機械レンタル会社に就職し、2年間営業職として務めていました。元々、業界問わず30歳までに起業したいという漠然とした目標があったんです。起業するため様々な分野に挑戦しましたが、なかなか上手くいきませんでしたね。その間に時間都合と単価的にも効率のいい介護のアルバイトを始めました。ただ当初は介護の仕事について良い印象はありませんでした。

—その時は独立心はあったのですか？

介護業界での独立心はありませんでした。というのも、どうしても3Kという印象を拭えなく、長く続ける予定はなかったんです。けれども、日々経験を積

み重ねていくうちに私の中で変化が起こったんです——。二つあり、一つはこれまで、排泄作業の回数が多く大変で嫌な仕事だと思っていましたが、1日の業務の中では一部の作業、利用者さんのためなら——と前向きに考えられるようになったんです。2つ目は、営業時代とは違い、売上ノルマを考えずに目の前の仕事に取り組む事ができる。その結果、利用者さんからは感謝され、信頼される。こんな良い仕事はないと本気で思うようになりました。

—実際現場で働かれることで、気づく点が多かったわけですね。それから、起業する考えに至ったのですか？

ええ。30歳の時に独立しました。実はこれまでの経験を通じて感じたことがあるんです。それは介護に携わっている人たちの中には、この先の介護業界がどうあるべきか考えていない人が多いということ。介護業界の報酬は依然として低い水準にあります。現在の介護業界の問題の一つでもあり、問題解決の力になっていきたいと思いました。

—社長が解決策を見出させることで若い方が介護業界に興味を持っていただけの方が出てくるでしょうね！

そうですね。私ぐらいの世代の人が会

社を経営し介護業界の問題に取り組んでいる姿を見て関心を持っていただきたいですね。超高齢社会の波の中、5年後、10年後に振り返った時に取り組んで良かったなと思います。また介護業界を発展させていくためにも従業員満足度を大切にしております。一人ひとりが仕事に自信と誇りを持ってほしいですね。——従業員さんにとって、介護の未来を考え取り組んでいる社長は頼れる存在だと思いますよ！ 最後になりますが、今後について伺います。

3年後は10店舗展開し、従業員は50人まで増員したいです。またより一層、人材育成に力を入れたいですね。IT業界で働いていた時期もあるので、ITを取り入れた新たな介護の形を生み出していきたいです。そして、上場という大きな目標に向けて走り続けたいです。

(2020年7月取材)



「『30歳までに必ず起業する』という目標を持ち有言実行で起業した福田社長。実はお父様も経営者だったそうで、小さなころから父の背中を見て育ち、『中学生の時から起業する意識が芽生えた』とおっしゃっていました。今後のますますのご活躍に期待しています！」

interviewer：辻よしなり

株式会社 **カストル**
訪問介護 **聖火 Tsurumi**

神奈川県横浜市鶴見区下末吉 5-8-43